

平成30年第1回定例会の開会にあたり、提出いたします案件につきまして、その概要を説明いたします。

今年の冬は、シベリア東部に蓄積した大気下層の非常に強い寒気が北西の季節風により日本付近に流れ込み、日本列島全域が連日、厳しい寒波に見舞われました。この寒波の影響により、各地で道路の通行規制や鉄道の運休等、交通障害が発生し、首都高速道路山手トンネルでは、多数の車が立ち往生を余儀なくされ、渋滞解消までに10時間を要する事態も発生いたしました。2月に入り、寒さは更に厳しさを増し、福井県においては、県内を南北に走る国道8号線で約1,500台もの車両が立ち往生となるなど、昭和56年豪雪以来37年ぶりとなる大雪に見舞われ、陸上自衛隊に災害派遣を要請する事態となりました。

山梨県においても平成26年2月に甲府で観測史上最高の積雪量114センチメートルを記録した「平成26年豪雪」が思い出されます。いつ、どこで、どのような規模の自然災害が発生するかを正確に予測することは困難を極めますが、今後も過去の経験を教訓とし、想定される様々な事態に備える取り組みを行ってまいります。

世界各地で寒波が猛威を振るう中、韓国平昌において、アジアでは1972年札幌、98年長野に続き、3度目となる、第23回冬季オリンピックが、過去最多となる92の国と地域、2,900人超の選手の参加により、熱戦が繰り広げられました。前回のソチオリンピックを上回るメダル獲得に大きな期待が寄せられた中、最高のパフォーマンスを披露する日本代表選手、124名の試合経過に国民の多くが手に汗握り、試合結果に一喜一憂したことと思います。特に昨年の秋の右足首負傷から見事復活し、四回転ジャンプを連続で成功させ、前回大会に続き金メダリストとなったフィギュアスケートの羽生結弦選手のその雄姿は、私たちに勇気と感動を与えてくれました。

さて、早いもので、私が市長に就任してから3年が経過しようとしております。この3年は、まさに本市を取り巻く諸情勢が、大きくしかも急激に変化した時期でありました。とりわけその一つが、平成27年国勢調査において、本市の人口が合併以後初めて減少に転じたことでもあります。さらに、この人口減少と同時進行する少子化・高齢化は、経済成長の低下や、社会保障制度の不安定化などの弊害をもたらす要因となります。私はこうした市政運営への悪影響を、可能な限り最小限に抑えながら、強固な財政基盤を維持し、本市の未来を切り開くための16本の公約を掲げ、皆様の信任をいただくべく努めてまいりました。

現在、これらすべての公約は、本市総合計画の中で60本の事業として体系化

し、計画的に取り組んでおります。

さて、新年度の国の経済は、雇用・所得環境の改善が続き、経済の好循環がさらに進展する中で、民間需要を中心とした景気回復が見込まれております。

しかし、こうした追い風の中、本市は合併特例制度を活用できる最終期限を迎え、将来を左右する局面を向えることとなるのは明白であります。新年度の行政運営に臨むにあたり、限りある財源を、最大限有効に活用すべく、その大半を、暮らしに直結した保健福祉、および教育の各分野に重点的に配分し、さらにそのサービス水準を高次元で維持できるよう、メリハリの効いた新年度予算の編成に努めてまいりました。

また、こうした市民生活の骨格となる施策を最優先させた上で、明るい未来に舵を取る、3つの大規模プロジェクトの完遂に向け、全力投球する所存でございます。

まず、その1点目として、「現庁舎の改修」についてであります。

昨年10月の6地区での市民説明会でお示しいたしました整備スケジュールどおり、西別館全階の改修は、1月31日に完了いたしました。強靱化を図りながらも、明るさとあたたかみのある空間として来庁者から好評をいただく中、現在、通常業務を行っております。

また、窓口の狭隘の解消と、災害対策の拠点としてさらなる安全性確保を目的に、既に本体工事に着手しております耐震棟の増築と、今後予定しております本庁舎の改修工事につきましては、新年度中の完成を目指し、精力的に取り組んでおります。

2点目として、行革の重要方策の一つであります、「公共施設再配置」についてであります。

既に、新たな「地域市民の拠り所」として好評価をいただいております、若草生涯学習センターへの若草窓口サービスセンターの移転実績と、2月19日から通常業務を行っております芦安農林漁業者健康管理センターへの芦安窓口サービスセンターの移転実績を活かし、5月21日には、高度農業情報センターにおいて八田窓口サービスセンターの業務を開始いたします。

さらに、(仮称)白根生涯学習センター・白根桃源図書館建設につきましては、市内北部地域の生涯学習活動の場を確保するため、図書館機能と生涯学習機能を複合化させた拠点として、7月のオープンを予定しており、既存図書館および道路整備課分室の解体後、駐車場等外構工事を実施し、9月の完成を目指してまいります。

これまで、市民サービスの向上を第一に、公共施設の統廃合と、長寿命化を同時に果たし、持続性のある財政運営を可能とするため、各地域における「市民の拠り所」の形成に注力してまいりましたが、新年度にはこれを達成することができますので、より多くの地域の皆様にご活用いただきますよう、お願い申し上げます。

3点目として、「6次化拠点整備」についてであります。

現在、優良企業の誘致に向け、用地を市が取りまとめ一元管理し、企業に賃貸する方針について、地権者の皆様にご理解の上、ご同意をいただくことができるよう、一人ひとり個別に説明を重ねております。

また、当事業審査委員会からのご提言や、地権者をはじめ市民の皆様の意見をいただきながら、「6次化拠点」につきましては、6次化の取り組みを含めた上で、民間活力による「広範な地域資源を活用した新しい産業」の拠点として位置付け、既存の枠組みにとらわれない、「南アルプスインターチェンジ新産業拠点整備事業」として再整備を進めてまいります。

現在、着々と整備が進められておりますリニア中央新幹線や、中部横断自動車道などの、各高速交通網のクロスポイントとなる立地の優位性を最大限に活かし、かつ、地域資源を活用した新しい事業を創出し、地域のブランド力を高めてまいります。また、地域経済を活性化させるために優良企業を誘致し、民間活力による「新産業拠点整備事業」を展開することで、持続的発展の可能性を有する地域社会の創造に向け、引続き全力を尽くして取り組んでまいります。

なお、これに伴い、現在の「6次化拠点整備室」につきましては、「南アルプスインターチェンジ新産業拠点整備室」として名称変更いたします。

次に、新年度予算案において、重点的な取り組みとして計上いたしました、子育て支援策と教育環境の充実についてご説明いたします。

まず1点目として、「子育て環境の整備」についてであります。

保育所の受入れ環境の改善や、施設の安全性の向上につきまして、これまで計画的に実施いたしており、新年度は白根・白根東・巨摩各保育所の大規模改修に着手してまいります。

また、小学校から遠距離にある小笠原児童クラブと、小笠原第2児童クラブの環境改善を図るため、統合した小笠原児童クラブの建設工事を実施してまいります。

2点目として、「病児保育施設整備事業」についてであります。

安心して子育てができるまちづくりの一環として、子どもが病気の際に医療機関等に付設された専用スペースで、一時的に保育事業を受けることができる環境の整備に取り組んでまいります。新年度は病児保育施設整備への支援を行い、すでに実施しております病後児保育と併せ、平成31年度から病児保育を開始してまいります。

3点目として、「救急医療確保対策事業」についてであります。

全国的に困難な状況となっております救急医療の確保につきまして、本市の2次救急は、巨摩共立病院と、白根徳洲会病院にお願いしております。

新年度から、傷病者の受入体制の強化を図るため、市内2次救急病院に対し、必要な費用を助成してまいります。

適正な救急医療の提供による地域医療の充実を果たすことで、子育て世帯や高齢者などの支援を必要とする市民をはじめ、すべての市民が安心して暮らすことができるまちづくりを進めてまいります。

4点目として、「小・中学校への防犯カメラの設置」についてであります。

不審者の侵入防止や、犯罪抑止対策に有効とされる防犯カメラが、小・中学校すべてに設置できるよう整備を進めてまいります。学校は、教育の場のみならず、児童・生徒が1日の大半を過ごす生活の場であるため、安全で安心な教育環境の実現を図るものであります。

5点目として、「小中一貫教育の推進」についてであります。

個々の児童・生徒の能力を伸ばし、社会で自立して生きる基礎を培っていくためには、小学校・中学校9年間で目指す子ども像を共有し、連携しながら学習指導や生徒指導にあたることが重要です。その具体策が、小中一貫教育の導入であり、現在は、芦安小中学校、八田小中学校を先行事例として取り組を推進しています。

新年度においては、芦安小学校と芦安中学校との間を、物理的にも一体感を創出することができるよう、渡り廊下で接続する改修工事を行います。また、八田小中学校については、教職員の移動手段を確保し、小中学校の教職員の交流を進めながら、小中一貫教育の取り組を推進してまいります。

次に、新年度予算案における、元気みなぎるまちづくりに向けた重点的な取り組みについてであります。

1点目は、「滞在型市民農園・クラインガルテン施設整備」についてであります。

クラインガルテンを拡充整備することで、交流人口の増加と、中山間地域の活性化を図ってまいります。新年度は、既存エリア内に7区画のクラインガルテンを整備してまいります。

2点目は、「伊奈ヶ湖周辺施設ユネスコエコパーク管理運営事業」についてであります。

今年度から、伊奈ヶ湖周辺施設を、南アルプスユネスコエコパークの理念に基づき、市民の健康増進、小中学生・青少年を対象とした森林環境教育の推進、およびエコツーリズムの振興のため、緩衝地域の拠点として活用できるよう再整備を実施しております。

新年度は、組織機構の見直しを行い、農林商工部観光商工課内のユネスコエコパーク推進担当を独立した部署として「ユネスコエコパーク推進室」と定め対応してまいります。こうした推進体制の強化を図りながら、ウッドビレッジ伊奈ヶ湖、グリーンロッジ、森林科学館および分館、レストハウス伊奈ヶ湖、北伊奈ヶ湖水辺公園などの各施設において、来訪される方々に快適に過ごしていただけるよう、質の高いサービスを提供してまいります。

3点目として、「地域集会施設の建設支援」についてであります。

地域の皆様が、お互いに交流しながら、自主的な活動を行うことができるよう、その拠点となる地域集会施設の建設への支援を行ってまいります。

新年度は、曲輪田横久根小路集会所建設と駐車場整備、並びに飯野七区公会堂駐車場用地取得への支援を予定しております。

4点目として、「市のシンボル策定」についてであります。

新年度には、合併から15年の節目を迎えるにあたり、本市のさらなるイメージアップや、市民の一体感醸成のため、市を象徴する木・花・鳥などを選定してまいります。既に、市民の声を反映することができるよう、「南アルプス市シンボル選定委員会」を立ち上げ、ご意見を伺っております。選定委員会において選定したシンボルにつきましては、市制祭15周年記念式典において披露いたしてまいります。

次に、新年度に向け継続的に実施しております、重点的な取り組みについて、ご報告いたします。

1点目として、「桃源文化会館の大規模改修」事業についてであります。

市民の文化活動の拠点であります桃源文化会館につきましては、安全かつ良好な状態を保持するため、今年度から大規模改修を実施いたしております。外壁、屋上防水など、長期的な観点で維持するための改修と、館内の利便性向上のための改修を行っております。全館を閉館しての施工は、既に2月から始めており、新年度の完成を目指しております。

2点目として、「市立美術館のリニューアル」事業についてであります。

来館者の安全確保対策と、収蔵作品の適切な管理を行うための既存施設の大規模改修、および増築工事の着工に向け、2月から閉館いたしております。

平成31年1月にはオープン記念として、20世紀美術に偉大な足跡を残した、スペインの世界的巨匠「パブロ・ピカソ」の版画展の開催を予定しております。人生の様々な場面で残した彼の版画作品を、リニューアルした館内でご覧いただくことで、本市の芸術文化の振興を果たしてまいります。

なお、今定例会に上程いたします3月補正予算案、および新年度予算案は、双方を一体的に編成することで、財政基盤の強化を図っております。

3月補正予算において、全庁的な行革の取り組みにより減額した一般財源を有効に活用するため、その一部を市債の繰上償還の財源とし、市債の残高と償還利子を圧縮することで将来負担の軽減を図ってまいります。

また、規律ある財政運営に資するよう、今後必要となる財源として、主要基金への積立てを行い、さらに計画的な市債の発行管理につなげるものであります。

任期4年目を迎えるにあたり、志を完遂するには、まだまだ十分でない点があるかと思えます。

本市を想う皆様からの尊い叱咤激励をいただく中、交わした約束は必ず実現するという強い意志を持ち、本市の明るい未来に向け、一意専心、務めてまいります。

本定例会に提出いたします案件は、条例案24件、予算案27件、過疎計画変更案1件、契約案1件、市道路線に関する案1件、合わせて54件であります。

詳細につきましては、総務部長、総合政策部長から説明いたします。